

思いやりとこころづかい

校長 鯨井 幹夫

穏やかな新春を迎え、保護者・地域の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、昨年は、保護者・祖父母の皆様、地域の皆様に多方面からご理解とご支援を賜り心から感謝いたします。

さて、先だってラジオから懐かしい詩が流れるのを聴きました。「こころはだれにも見えないけれど、こころづかいは見える。思いは見えないけれど、思いやりはだれにも見える。」AC ジャパン(旧公共広告機構)の広告に宮澤章二さんの詩が使われていたのです。宮澤章二さんは、旧大宮在住の埼玉県を代表する詩人でした。県内多くの学校の校歌の作詞者やクリスマスソングの「ジングルベル」の作詞者としてご存知の方も多いかと思います。その息子さんから戴いた詩集『青春前期のきみたちに』に掲載されている詩「行為の意味」の一節が流れていたのです。

行為の意味

——あなたの<こころ>はどんな形ですか／と ひとに聞かれても答えようがない／自分にも他人にも<こころ>は見えない／けれど ほんとうに見えないのであろうか

確かに<こころ>はだれにも見えない／けれど<こころづかい>は見えるのだ／それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の<思い>は見えない／けれど<思いやり>はだれにでも見える／それも人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心が あたたかい行為になり／やさしい思いが やさしい行為になるとき／<こころ>も初めて美しく生きる／——それは 人が人として生きることだ

『青春前期のきみたちに 詩人 宮澤章二の七十七のメッセージ』より

本校では学校教育目標の一つに「思いやりのある子」の育成を掲げていますが、思いやりの気持ちはもっていても、なかなか行動に移すことは難しいものです。とかく現在は人間関係が希薄になり、人間関係作りが下手になったとも言われますが、人は人と接し関わって成長していくものです。宮澤章二さんの詩『行為の意味』に込められたメッセージをしっかりと受け止め、すべての子どもたちがもっているあたたかくやさしい気持ちが、あたたかい行為・やさしい行為となって出現するような教育を目指していきたいと思います。また、教職員もときには厳しく、ときにはやさしく、あたたかい行為・やさしい行為を大事にしながら教育活動を進めていく所存です。

いよいよ3学期。3ヶ月という短い期間ですが、厳しい寒さの中にも日1日と昼の長さが伸び、明るい光を感じられるよい時季です。学年のまとめはもちろんのこと、子どもたちが学ぶ喜びや友と共にある喜びを味わいながら自分の力を発揮し成長できるよう、全職員一丸となって精進していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



【お知らせ】

昨年暮れ、PTAのご尽力により飼育小屋がリニューアルしました。獣医師さんの助言にもとづいて、衛生第一に排水がしっかりできる床と手づくりのスノコを設置したところ、ウサギのチャチャも気に入ったのか糞をする場所もきちんと決めてきれいに使っています。チャチャも年老いていますが長生きしてほしいと思ひます。ありがとうございました。